

第71回静岡県整形外科医会集談会

日 時：昭和61年 7 月12日

場 所：静岡市日興会館

1. 肩に発生した pseudomalignant myositis ossificans の 1 症例

静岡県立総合病院整形外科

武田 信巳・浜本 肇

根尾 昌志・稲垣 泰司

沢野 浩

兵庫県立尼崎病院整形外科

芦田 一弥・池田 登

Pseudomalignant myositis ossificans とは1975年 Lagier により呼称された軟部悪性腫瘍との鑑別を要する非外傷性骨化性筋炎である。我々は肩に発生した 1 症例を経験したので報告する。患者は46才主婦で、1983年12月初旬、何ら誘因なく右上腕近位部痛を来し、約3ヵ月後、症状の増悪と腫瘤に気付いたため受診した。レ線像にて上腕骨より離れた腫瘤状骨化陰影があり、辺縁骨化性であった。Ga, Tc シンチで異常集積、血管造影上、血管鋼増生及び tumor stain が存在したので、試験切除を兼ね手術を施行した。腫瘤は三角筋内にあり 3.5×2.0×1.5cm で被膜を有し、病理学的に特徴的な three zoning pattern を呈していた。術後約2年経過したが再発は認められない。本症は名称に異論はあるが、OGilivie-Harris の5つの特徴によく合致したので、P.M.O. を採用した。